

倫理的な原材料調達とは： 欧州企業・業界団体の取り組み



地球・人間環境フォーラム
満田 夏花

1

プレゼンテーションの内容

- 業界団体の取り組み
～ 鉱物資源、木材
- 企業の取り組み
～ ユニリーバ、M&S
- なぜ「原材料調達」？ 全体的な認識・傾向
- 認証の可能性～MSCを例にとって
- 「責任ある原材料調達」に取り組む手法
- まとめと提言

2

背景

3

発展途上国の環境社会問題に関する関心



開発と
染、人権

プランテーションと
熱帯林破壊

奴隷チョコ
レート

4

発展途上国の環境社会問題に関する関心

- 発展途上国の生々しい環境社会問題
がお茶の間にしばしば登場
- 消費、投資、融資側の責任と関連づけ
られることも
- 現実の世評リスク(レピュテーション・リ
スク)

5

パワフルなNGOの存在 それに耳を傾ける消費者の存在

- 科学的なデータに基づくさかんな
キャンペーン
- 企業との緊張関係
- 企業とのパートナーシップ
- 消費者・投資家行動を左右

6



「倫理的な調達」> = 原材料の生産過程の環境社会にも配慮した調達、加工過程の配慮

- 原材料調達は、企業にとってはビジネスの本質にかかわる。
- これに真剣に取り組むこと + **コミットメント** + **情報開示**を進めていくことが、真に責任ある企業という証。
- 先行投資
- 企業の評価、ブランドを守る
- 企業としての存続：長期的なビジネス

業界団体の取り組み

事例 ICMM (国際金属・鉱業評議会)
事例 TTF (木材貿易連合組合)

鉱物資源産業

MMSD (鉱山・金属・持続可能な開発) Project 1999-2000

- 独立した、2年間の協議・及び研究プロセス
- ロンドンにあるIIED (国際環境開発機関) が運営
- 業界のほか、多くのNGO、地域グループ、先住民グループ、研究者なども参加
- WBCSDおよびGMI*、企業により支援
- 23のワークショップの開催

→ 'Breaking New Ground,'

* WBCSDの主要鉱山会社によるイニシアチブ

鉱物資源産業 ~ ICMM (International Council on Mining & Minerals)

- 金属、鉱業に関わる企業・業界の国際組織 (2001年から発足)
- 「持続可能な開発」をミッションに
- 主要な鉱業・金属企業
Anglo American, BHP Billiton, Codelco, Newmont, Noranda, Phelps Dodge, Placer Dome, Rio Tinto, WMC Limited, Freeportなど、日本からは鉱業協会、住友金属鉱山、日鉱金属、三菱マテリアル
- MMSDの報告を受け、10の原則に合意 (2003年5月)

鉱物資源産業～ICMM (International Council on Mining & Minerals)

1. 倫理的な企業統治
2. 意思決定過程への持続可能性の組み込み
3. 従業員・影響を受ける人々の基本的人権、文化、習慣、価値観
4. リスク管理戦略の導入
5. 労働安全衛生パフォーマンス
6. 環境パフォーマンス
7. 生物多様性保全及び土地利用への統合アプローチ
8. 責任ある設計、利用、再利用、リサイクル、廃棄
9. 操業地のコミュニティの社会、経済、制度発展への貢献
10. 効果的、透明性のある関わりとコミュニケーション、独立した証明を伴う報告制度

課題：遵守確保と透明性

13

鉱物資源産業～ICMM (International Council on Mining & Minerals)

- GRIに協力し、鉱業における持続可能性報告のための「補足文書」
- さまざまなグッド・プラクティス、事例研究、ツール・キット
- 鉱山の認証に向けた取り組みへの協力も

「ICMMのメンバーであるということが、鉱物資源の持続可能性を保証するブランドになればよいと考えています」

14

鉱物資源産業～ICMM (International Council on Mining & Minerals)

“no-go”ブレッジ(2003年8月)

- 世界遺産(歴史遺産、自然遺産)においては開発、採掘を行わない。(“no-go”)

→「画期的な」コミットメント？

- IUCNと協働し、保護地域システムを強化

世界遺産において開発しないのは当たり前では。
IUCNのカテゴリーI-IVは？
さまざまな協議プロセスによって提案された、保護すべき地域(ホットスポット等)を尊重すべきでは？

15

英国木材貿易連合組合(TTF)

350社：木材輸入会社の87%、代理店、商社、メーカーなどが加入

行動規範

「木材、木材製品を合法で適切に管理された森林から調達することを約束する」

- 全会員が遵守義務
- 不遵守の場合はペナルティあり(除名など)

16

英国木材貿易連合組合(TTF)

木材調達方針(2001年、2004年に改定)

- 署名した企業が遵守義務を負う。
- 70社が署名
- 環境管理の実施、合法性の確保、絶滅危惧種の不買などのコミットメント
- リスク評価手法、サプライヤーへの質問・モニタリングなどの手続きのガイド

17

企業の取り組み

事例 : ユニリーバ
事例 : マークス&スペンサー

18



ユニリーバ

世界最大級の消費財メーカー。食品、石鹸、化粧品、日用品など。

農業

- 原材料3分の2が農産物からのもの
- 1990年代から「持続可能な農業イニシアチブ」を開始
- 5つの主要原料についてガイドラインを策定
パーム油、茶、豆、ホウレンソウ、トマト
- 「リードプログラム」
サプライヤーとの協働による実践
- 大豆油、菜種油、オリーブ油なども検討開始

19



ユニリーバ

魚

- 実態調査: サプライヤーへの質問(1996年)
- 魚の持続可能性イニシアチブ(1996年)
→「すべての魚を、2005年までに持続可能なストックから調達する」というコミット
→行程表を作成
- 2004年には、半分以上目標達成

20



ユニリーバ

魚

- 市場全体を持続可能なもの方向に引っ張る
- MSC(海洋管理協議会)の立ち上げ

しかし、現在、認証された魚はわずか

- 評価ツールの考案→自分自身で、それぞれの漁業を評価
- 「Traffic light」システム(1998年から)

21



ユニリーバ

魚



指標: 調査、割り当てシステム、規制・調整手段、コントロールシステム、長期的な管理計画

22



マークス & スペンサー

MARKS & SPENCER

大手小売チェーン(食料、衣料、家具、金融など)

Sustainable Sourcing

持続可能な調達の考え方

- フード・マイル: 地場のものを取り扱う
- LCA
- Field-to-Fork: サプライチェーン管理

23



マークス & スペンサー

MARKS & SPENCER

持続可能な調達の重点

- オーガニック
有機農産物、衣料素材を促進
オーガニック・コットンを2010年までに5%に
- 木材
木材調達方針の策定(2004年11月)
- 魚
MSCの積極的な取り扱い、避けた方がよい魚種の回避→海洋保全協会のリストづくりに協力

24



マークス & スペンサー

MARKS & SPENCER

木材調達方針

マークス & スペンサーは、**木材の合法性、樹種、原産国について、サプライヤーが証明、報告できるものしか、製品の原料としては取り扱わない。**

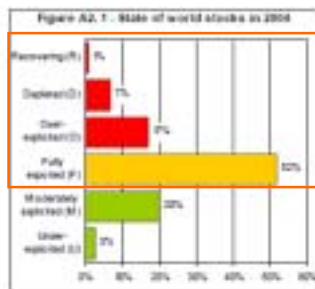
サプライヤーは、使用木材が、森林管理の欠如から、環境および社会へのダメージを与えていないことを示さなければならない。

26

認証とラベリングの可能性 ～ MSCの海産物認証を例にとって

27

危機的状況にある漁業資源



すでに生産限界に達しているもの、過剰漁獲、枯渇しているものが、全体の77%

地球白書2004-5によれば、人類はこの50年の間、海洋性大型捕食魚類の少なくとも90%を採りつくしたとの記述も

FAO(2005), Review of the State of World Marine Fishery Resources

28

MSC (海洋管理協議会) とは

- 消費者の選択を通して、持続可能な漁業を促進
- 1997年にWWFとユニリーバとの対話の結果誕生、1999年に独立した非営利団体に
- MSCの基準に基づく漁業の認証およびCoC認証
- ロゴマーク
- MSCは認証機関の認定を行う
- 現在、14の漁業が認証済み、18が評価中

29

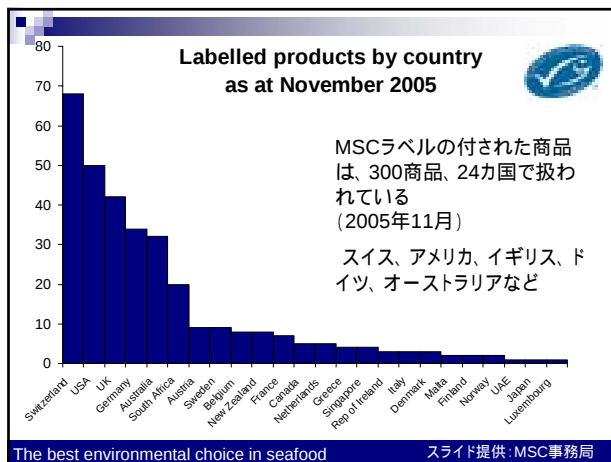
MSCの原則

- 過剰な漁獲を行わず、資源を枯渇させないこと。資源が枯渇している場合は、回復できる場合のみ漁業を行うこと。
- 漁場となる海の生態系やその多様性、生産力を維持できる形で漁業を行うこと。
- 国際的、または国内、地域的なルールに則した漁業を行うこと。また、持続的な資源利用ができる制度や社会的な体制をつくること。

30



31



Sainsbury's

- 15 products
- New products – MSC label now available in chilled, canned, fresh, smoked and frozen

スライド提供: MSC事務局

33

認証の可能性と課題

- 消費者にとってわかりやすいシグナル
- 生産者にとってのインセンティブ
- 意識啓発の機能
- 認証コスト
 - 認証機関を儲けさせるだけ?
- 全世界に共通する原則と地域の多様性の使い分け
- 認証しやすいもの、しにくいもの

34

まとめと提言

35

責任ある原材料調達に取り組む手法

個別企業

- 生産現場で起こりうる問題を知る: リスク評価
- 目標設定とコミットメント

調達方針の策定

- サプライヤー評価
- サプライヤー支援
- 情報公開
- パートナリシップ

36

責任ある原材料調達に取り組む手法

グループとして

- バイヤーズ・グループの結成
サプライヤーへの要請
サプライヤーへの支援
グループとしてのコミットメント
- 円卓会議
川上から川下まで(RSPO)
地域のステークホルダー

37

社会やマーケットを変え、
公平で持続可能な国際社会を実現するために

ぜひ、原材料調達方針の検討・策定を

38

ご清聴ありがとうございました。
ご意見をお寄せ下さい。

E-mail: kanna.mitsuta@nifty.com

39